

センター試験に向けて（学年集会において）

私自身の昔話をさせていただきます。

1960 年生まれの私は、現在の大学入試センター試験の前身である共通一次テスト第一期生です。共通一次試験実施までは、各大学が一期校と二期校に分かれて大学ごとの試験を実施していました。誰でも国立大学に2回挑戦できたわけです。それが、共通一次テストと各大学の二次テストを経て一回の受験機会となりました。その後様々な変遷を経てきましたが、当時は、前年のデータがない、まさに一発勝負の試験でした。テスト初日は、関東地方に大雪が降りました。私は、不覚にも家を出る前に庭で転んでズボンを泥だらけにしてしまい、慌てて替えのズボンを引っ張り出しました。また、私を可愛がってくれていた母方の祖母が前日に亡くなりました。高校生の私には不幸のてんこ盛り状態でしたが、あまり混乱していた覚えがありません。もしかすると、学年全員で学校からバスに乗って試験場である筑波大学に向かったことが平常心を生んでくれたのかも知れません。その後、無事大学に合格して、今ここに立っているわけです。

さて、3年生の皆さん、よくここまで頑張ってきました。ここに来るまでには様々なことを乗り越えてきたと思います。これからは、総仕上げの時期です。センター試験のあと私立大学試験や国公立の前期・中期・後期と続いていきます。あすは、そのスタートをきる試験となります。慌てない・焦らない・諦めない心で過ごして下さい。本校はセンター試験を、3年間下妻一高で学んできたことを試す試験と位置づけて全員で受験しています。全国の受験生との腕試しをする全国大会です。それぞれ準備の善し悪しはあるでしょうが、今ある力を全て出し切れるよう集中して臨んで下さい。幸いにも皆さんには仲間がいて、応援してくれる保護者や先生方がいます。皆さんの2日間の健闘を祈ります。



学年主任からのエール



学年の先生方による「栄光の架け橋」熱唱